



学校だより

2024.2.29 No.139

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3

明石高専

<https://www.akashi.ac.jp>



高専祭 (11月3日・4日開催)

～ 目 次 ～

校長講話.....	2	5年生見学旅行報告.....	9
高専体育大会報告.....	3	各種大会・コンテスト報告.....	10
学生行事.....	4	海外留学報告.....	12
卒業・修了にあたって.....	5	国際交流活動報告.....	13
退職教員より.....	7	学生支援オフィスより.....	14
教員表彰報告.....	7	図書館より.....	14
3年生合宿研修報告.....	8	校内短信・行事予定・学生表彰.....	16

校長講話

六甲全山縦走(塩屋～宝塚)

校長 土居 信数 (どい のぶかず)

JR塩屋駅から阪急宝塚駅までの六甲全山縦走コース(公称56km、累計標高差3,000m)を3回に分けて完歩した。初回は、JR塩屋駅から神戸電鉄鶴越駅まで。まずは、塩屋駅北側にある昭和の香りがする商店街をぬけて旗振山(標高252m)を目指す。山頂は眺望が開け、眼下に明石海峡大橋を望む。この日は六甲全山縦走大会の練習のためか、須磨浦公園からきたトレイルランナーが多数いる。彼らは下りだけではなく上りも走っている。まねをせずにマイペースで鉄拐山(234m)、高倉台団地、梶尾山(250m)に進む。高倉台団地では、まだ体力的に余裕があったので30代くらいの女性を追い越す。しかし、直後に現れた約400の階段の途中で抜き返される。少し気恥ずかしい。気持ちを切り替え、横尾山(312m)、馬の背へ向かう。馬の背は稜線が切り立ち、高所恐怖症のためおそるおそる渡る。このあと妙法寺付近で道に迷うが、荒熊神社、高取山(328m)を経て鶴越駅に無事到着。久しぶりの登山だったので少々疲れる。

2回目は、神戸電鉄鶴越駅から摩耶山まで。駅を出て何も考えずにベテラン風の登山者の後を追い、出だしからコースアウト。もどるのも面白くないので、妙号岩近くで強引に軌道修正し、石井ダム下の取付から菊水山(459m)へ向かう。菊水山は急登の階段が続く難所で、足を使う。山頂手前で、下山者から「あと少しですよ」と声を掛けられる。よほど疲れているふうに見えたのだろう。しかし、山頂からの眺めは素晴らしく、これまで辿ってきた稜線が一望できる。司馬遼太郎は坂の上の雲のなかで、「神戸はノコギリのような山波が海にせまっております、その山と海の間には土地がある」といつているが、まさにその通りだ。山は大部分が花崗岩で出来ており、風化してもろくなっているところがある。このあと鍋蓋山(486m)、大龍寺山門を經由して市ヶ原に至る。市ヶ原から摩耶山山頂(702m)までは上り下りの繰り返して一番の難所といわれている。不安だったが、幾人もの山ガールに追い越されながらもなんとか登り切る。山頂の眺望はない。すこし離れたところに掬星台があり、ここからは神戸市街地が一望できる。今日はここまで、と考えていたが、まやビューライン(ケーブルカー・ロープウェー)が定期点検中のため、やむなく痛む足を引きずりながら下山。この日の歩数は、40,000歩を超える。

3回目は、摩耶山から阪急宝塚駅まで。天気はよくないが、この原稿の締め切りに間に合わせるため強行。この日もまやビューラインは定期点検中のため、掬星台までコースタイム120分のところ90分で登る。なかなかいいペースだ。濃霧のため途中から視界が20mほどになる。掬星台からは車道を通るため、車に気を付けながら記念碑台経由で六甲山最高峰(931m)まで移動。慎重に歩いたせいかわりに150分かかる。六甲山最高峰は、いつもは登山客で賑わっているが、この日は悪天候のため先客は2人しかいない。この時点で午後2時15分。日没は午後4時50分のため時間に余裕がない。先客に記念写真の撮影をお願いして、急いで大谷乗越経由で阪急宝塚駅に向かう。六甲山最高峰からは下りで体力的には楽だが、時間はそこそこかかる。途中から暗くなりはじめ、塩尾寺に到着したのは午後5時。もう辺りはすっかり暗い。ここからは舗装路なので大丈夫だろう。登山は時間に余裕をもたないといけない。後悔! 終点、阪急宝塚駅到着は午後5時40分。この日の歩数は、52,775歩。よく歩く。

六甲全山縦走は、標高こそ低いながら16もの山を巡るなかなかハードなコースだ。人生と重なるところがあるかも知れない。誰にでも、上り坂で調子のよいときもあれば、下り坂でつらいときもある。今回の縦走は、これまでの人生を振り返るよい機会になった。「人間到る処青山有り(じんかんいたるところせいざんあり)」、ということわざがあるが、その通りだ。人間、骨を埋める場所はどこにもある。どのような場所におかれても、くさらないで前を見据えて歩み続ければなんとかなるものだ。県内のある高校では、このコースを3分割して、3年間で全員完歩するそうだ。さすが、文武両道のすばらしい学校だ。本校の学生にもぜひ挑戦して欲しい。

さて、つぎはどの山に登ろうかな。春になったら大山(1,729m)に行こう。夏には久しぶりに富士山(3,776m)に登ろう。それに備えて、今日も走るぞ!



高専体育大会報告

小説風 高専大会に思うこと

学生主事 穂本 浩美（あきもと ひろみ）

「今年度の全国大会は入賞がなかったね」

残念そうに肩を落とすアキモト先生に、ヒロミは全国大会へ進んだ団体を思い浮かべた。

「陸上、男子バスケ、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、バドミントン、サッカー。こんなにあります。全国へ勝ち進んだことを認めてあげたらいいじゃないですか」

「でも学校にとってはひとつくらい全国での優勝がほしいよね」

アキモト先生の言葉に感じたヒロミの違和感は刃へと姿をかえた。

「学校の名誉よりも学生たちの健闘をたたえてあげてほしいです。アキモト先生はどこを見て仕事しているんですか」

学生にそんなことを言われたのはおそらく初めてなのだろう。彼は新種の昆虫を発見したような顔をしている。

「みんな怪我したり、後輩に追い抜かれたり、いろんな思いに耐えて努力しているんです。そんな人たちが自信を持てるような言葉をかけてもらいたいです」

辛辣なヒロミの言葉が引き出したアキモト先生の答は実に意外なものだった。

「だけど努力したからといって必ずしも成果が出るとは限らないよね。そんな現実も学生には受け止めてもらいたいです」

その言葉でヒロミは中学時代の部活の顧問を思い出した。バンドエイドに隠された治りきっていない傷がうずくようだ。

「努力がむくわれないのは私も理解しています。私が中学のときのこと話していいですか」

アキモト先生がうなずいたのとヒロミが話し始めたのはほぼ同時だった。

「私、水泳部でずっと練習してたんです。でも体が小さくて細いのでスピードが出ないんです。その年の大会は私の中学が担当校だったので顧問もかなり力を入れていて全種目で優勝だ、なんて言っていました。私は平泳ぎで出場することになっていただけけどタイムが上がっていませんので結果はほぼ見えていたんです。でも顧問は別のことを見していました」

久しぶりに噛んだ下唇が痛い。ヒロミは話をつづけた。

「大会当日の朝、部員でもない子がプールで泳いでいるんです。学校でも有名な運動神経抜群の女の子でした。彼女の身体能力は突出していてどんなスポーツをやっても敵なしです。だから彼女は中学で部活なんかしていなくて社会人の団体で活動していました」

その彼女が急遽、顧問に呼ばれたのだ。あろうことかヒロミが出る予定だった女子50メートル平泳ぎだった。部員でもなく練習もしていないのに、こんなときだけ呼ばれて期待通りの活躍を見せる。彼女は優勝、ヒロミは最下位だった。

「これはかなりダメージ大きかったです。顧問はひとりの部員よりも学校の名誉を重んじるんだ、そんな風に思うと悲しくて大泣きしてしまいました」

アキモト先生は黙って聞いている。頼りになるのかならないのかわからない先生だ。

「それからは自己肯定感ががりっぱなしです。いつもネガティブに考えてしまうんです」

自分の話が重い空気とその先の沈黙を連れてきてしまった。だけどいつまでも沈黙の顔を立てるのは腹立たしい。ヒロミは一番聞きたい質問をした。

「どうやったらネガティブ感情をプラスに変えることができますか」

組んだ腕をほどくとアキモト先生はヒロミに向き直った。

「目標を持てばネガティブ感情は薄まるよ」

「目標？たとえば全国大会で上位入賞とか、大学編入でいい大学に進学するとかですか」

「そんな漠然とした目標だと実現しないよ。もっと具体的にいつまでにこれを成し遂げる、みたいな願望でないと。目で見え、手で触れることができるくらいの願望でないとね」

身を乗り出したヒロミの視線がアキモト先生のそれとぶつかった。目標が燃えるような願望になればネガティブ感情はなくなるよ、そんな声が聞こえてきそうだった。

*これはフィクションなので登場人物は実在しません、念のため。

学生行事

スポーツ大会を創る

学生会執行部 都市システム工学科 1年 西浦 航生 (にしうら こうせい)

秋晴れの空の下、今年度もスポーツ大会を執り行うことができましたこと、本当にうれしく思います。今年度は天候にも恵まれ、皆様のご協力のもと熱気あるスポーツ大会とすることができました。

今年度入学した私にとっては、初めて臨んだスポーツ大会でした。クラスの想いを一身に背負い、試合に挑まれる皆さんの姿には非常に感動しました。特に、学科対抗リレー、綱引きでは各クラスの1年生から5年生、専攻科生の皆さんが、ひたむきに取り組まれておられた様子が印象的でした。

今年度のスポーツ大会は、昨年度との変更点も多く準備が思うように進みませんでした。特に今年度から新たに導入された混合学級制の対応では、多くのルールの変更を余儀なくされました。しかし、当日は混合学級である1年生が、学科の垣根を越えて自分のクラスを応援する姿も見られ、クラスの団結もより深まったように思います。さらに今年度からは、怪我対応要員を配置しました。そのため、怪我人が発生した際には、より早急な対応をすることができました。来年以降はさらに、より迅速かつ的確な対応ができるよう検討していきたいと思っております。

明石高専のスポーツ大会では一般的な運動会とは違い、複数種目を同じ時間帯で実施し学生会執行部が中心となり執り行います。しかしスポーツ大会は、学生会執行部だけでは成し遂げることはできません。今年度も学校関係者の方々や学生の皆さんの準備や運営へのご協力があり、スポーツ大会を創り上げることができました。本当に感謝いたします。

来年度のスポーツ大会では、皆さんからいただいたご意見をもとに、今年度以上に素晴らしいものとなるよう協議を重ね、皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

学生会執行部では、これからも学生会員である学生の皆さんがよりよい学校生活を送ることができるよう尽力して参ります。今後も学生会執行部の活動へのご理解とご協力よろしくお願いたします。



制限のない高専祭を創り上げて

高専祭実行委員長 都市システム工学科 3年 今田 成 (いまだ なる)

今年度の明石高専祭は、4年ぶりに食品バザー復活、来場者制限撤廃となる開催を実現することができました。まず開催にあたり、たくさんの方々からご協力を頂きましたこと、心より感謝を申し上げます。

私たち高専祭実行委員会は、2020年度から2022年度にかけて、必ず何かと制限を設けられ、高専祭の企画・運営を行なってきました。学生限定の高専祭になったり、人数制限があったり、食品でのバザーができなかったり…。思う存分に楽しめず、制限のかけられた高専祭が普通になりつつありました。そして、今年

やっとコロナ禍前の高専祭に戻せることになり決まったテーマは「浪漫」。今になり思い返してみると、どんな方々にも制限なく高専祭を楽しめる、言わば私たちの理想としていた高専祭にとてもよく似合うテーマであったと思います。私たちもどんな高専祭になるか分からない中、実行委員で折り紙を折って金魚を製作したこと、過去の高専祭を経験している先輩に何度も質問したこと、当日雨が降らないか不安だったこと、全てが最高の思い出になりました。

少し個人的な話になりますが、今年は委員会のメンバー構成の関係で3年生である私が実行委員長を務めさせて頂きました。コロナ禍で課せられた制限を撤廃するという大仕事を任せられ、大きな責任を感じながら企画を行っていた日々を思い出します。それと共に、自分が今までに背中を見てきた実行委員長や先輩の凄さを感じていました。やはり3年生の自分には知識に限界があり、自分ではどうしようもできなかったところを何度も助けて頂きました。間違いなくと言っていいほど、今までで一番周りの力に助けられた実行委員長だったと思っています。自分のわがままをいつも聞いてくれた同級生、高専祭が終わるまで全員でついて来てくれた後輩の委員にも感謝の気持ちでいっぱいです。今年度の高専祭が終わったと思えば、次は来年度の高専祭がやってきます。2024年度高専祭もメインは私たち新4年生の代で企画を行うこととなります。この1年で作り上げた本来の高専祭を、さらに自分たちの力で過去最高のものに完成させたいと考えています。私個人としても、今度は次年度実行委員長を支える立場になれるよう尽力する所存です。ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後とも私たち高専祭実行委員会をご支援頂けると幸いです。



卒業・修了にあたって

高専生活を終えて

機械工学科 5年 住谷 亮哉（すみたに りょうや）

高専での生活をもうすぐ終えるにあたって、振り返ってみると高専で過ごしたこの5年間はとて居心地のよい学校生活であったと感じます。その一番の理由が共に過ごしたクラスメイトの存在です。

教室では難しい課題や試験勉強などを気軽に相談できる雰囲気はもちろん、皆が多種多様な趣味をもっていて、しかも本気で取り組んでいたため互いに成長できる強い刺激がありました。時には意見の違いなどによって衝突することがあったものの、クラスメイトたちで話し合っ解決できることがほとんどでさらに絆が深まることもあったと思います。このクラスで僕が委員長として5年間、卒業旅行やその他行事のときクラスの団結の中心で力になれたことはかけがえのない経験です。このクラスメイトとの別れは名残惜しいですね。

これから一人一人が全く違う道を行んでいくこととなりますが、高専で学び、自分のやりたいことを突き詰めていける皆はきっと充実した日々を送っていけると信じています。そしていつかの機会に再会したとき、互いに社会人のエピソードを話し合えることを楽しみにしています。



濃密な5年間

電気情報工学科 5年 藤島 明日香（ふじしま あすか）

卒業に際して振り返ると、私の明石高専での学生生活は非常に濃密なものだったと感じます。部活動やクラスの行事、研究活動、Co*workなどを通してたくさんの人たちと関わる機会を持つことができ、本当に幸せな時間だったと思います。

5年の長い期間を共に過ごしたクラスメイトとは、入学時には想像もつかなかったほど深い絆を築くことができました。毎日の他愛もない会話は、勉強や研究活動の精神的な支えでした。専門の話を楽しんだり、推しを語り合ったり、それぞれのやりたいことに一生懸命な友人たちとの時間は、新しい世界を知る喜びを得られたうえ、お互いにモチベーションを増幅させられた貴重なものでした。

今思うと、目の前の課題にただひたすらに取り組むような高専生活でしたが、たくさんの刺激を受けて逞しく成長できた5年間だったと思います。学問や研究に真摯に向き合っ楽しむことや、グループで活動する喜びなど、一生の財産になる学びができました。私の明石高専の5年間を支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

アオハルの1ページ

都市システム工学科 5年 尾崎 友理奈（おざき ゆりな）

私にとっては、「短いようで長く、長いようで短い」そんな5年間でした。入学当初は、目の前にある課題に取り組むのに必死で、めまぐるしく月日が過ぎていきました。中学生の頃から憧れていた高専祭では、ふらふらになるまで接客し続けたこと、よく覚えています。しかし、そんな華やかな高専生活は、2年生に進級したタイミングで様変わりしてしまいました。写真フォルダはマスクをつけた写真ばかりで、所属している合唱部の定期演奏会は、無観客で実施せざるを得ませんでした。それでも、わたし達にできる最大限のことは何か、何度も話し合うことで、部員の絆はより一層深まったと思います。当たり前にあった日常が一時的に奪われたこと、未だにとて悔しいですが、この期間で成長できたことも沢山あったように思います。

最後に、このクラスのみんなと、先生方と、委員長として5年間過ごせたことを微力ながら嬉しく思っています。新年度から自分の選んだ道をそれぞれ歩き始めますが、慣れ親しんだこの学校をいざ離れるとなると正直今は寂しい気持ちでいっぱいです。でも、同じ時間を共有した仲間との最高の“アオハル”の1ページを引っ提げながら、きっと、これからも。



卒業・修了にあたって

陸上競技部

建築学科 5年 山本 雄大（やまもと ゆうだい）

明石高専では学校の勉強以外にも様々な活動に取り組んできました。その中でも一番力を入れていたのは陸上部での活動です。私は高専から陸上競技を始め、長距離部門で活動しました。陸上について右も左もわからない状態でしたが、先輩や友人に走り方やレースのコツなどを教えてもらいながら日々練習を重ねました。そんな中で2年生の春頃に訪れたのがコロナ禍でした。約半年間の間、部活動としての練習ができないことに加え、予定されていた大会や記録会なども軒並み中止となりました。大会での記録更新を目標にしていた私にとって、モチベーションを保つことはそう簡単ではありませんでした。しかし、そこで諦めてしまうのではなく、いつか開催される大会で自己ベストを更新するために練習に励みました。それまで先輩に頼っていた練習メニューも、インターネットなどで調べ、自分自身で考えて練習しました。モチベーションを保ち続けるのはかなり難しかったですが、タイムを測る日を決めて練習するなど工夫することで、部活動がない期間でも毎日走ることができました。その練習の甲斐もあって秋に再開された大会でもベストを出し、駅伝では1区10kmを走り学校初の県大会出場を果たすことができました。私はこの部活動で努力することの大切さを改めて学びました。そして、難しい状況に立たされたとしても目標に向けて努力を重ねた経験を活かし、卒業してからも頑張りたいと思います。

長く短い7年間

機械・電子システム工学専攻 2年 佐藤 大峻（さとう ひろたか）

明石高専での7年間を振り返り、非常に恵まれた人間関係の中で学校生活を過ごすことができたと思います。入学して間もないころは、自分が持っていないスキルや価値観を持つ変わったクラスメイトばかりで戸惑いを感じました。しかし時に楽しく、時に真剣に物事に取り込む彼らと交流することにより刺激を受け、学力と人間性の両面で成長することができたと思います。今では喜びを共有し、困ったときには支えあえるかけがえのない仲間です。彼らとの絆は一生涯を通して大切にしていきたいです。また授業や研究活動において先生方から温かいご指導をいただいたことにより、知識や技術、経験など幅広い学びを得ることができました。将来は高専で得た学びを活かし、自分を含め社会全体をより豊かにすることができるよう、日々精進してまいります。最後になりましたが教職員の皆様、友人、家族、そしてお世話になった全ての方々へ心より感謝申し上げます。



豊かにすることができるよう、日々精進

七年

建築・都市システム工学専攻 2年 中山 旭（なかやま あさひ）

私たち専攻科生の学生生活は7年間に及びましたが、振り返れば光陰矢の如しでした。本校では基礎学習は勿論、実習や実験を通して土木工学・建築学に対する知識を身に付けることができました。

部活動では、本科1年生当時から苦楽を共にする仲間ができ、学科ではお互いを支えあい勉強に勤しむ仲間がいます。私が入学して思った高専の好きなのところは、良かれ悪しかれ世間が狭いところとところです。7年という年月を経て友人の友人、そのまた友人というように輪が広がり、「顔だけ知ってる」から「友達」へ。たくさんの出会いをくれた高専には感謝しています。

また、先生方にも進学にあたってのアドバイスを頂いたり、研究や学会などでも遠方まで引率していただき、かけがえのない思い出になりました。

充実した7年間でありました。お世話になりました先生方、学校関係者の皆様、日常を共にした友人、仲良くしてくれた後輩たち、そして支え続けてくれた家族に、心より感謝を申し上げます。



退職教員より

継承と変革

教養学群 善塔 正志（ぜんとう まさし）

写真は本校50周年記念誌に関する会議時のもので約10年前です。この10年間で予測できなかった驚くばかりの変化が多数あります。Co+work、グローバル事業……。所属名称の一般科目も変わりました。退職にあたって、これまでに会った教職員・学生・関係者等、30有余年にわたる多くの方々に、感謝する気持ちをもって明石高専を後にするのは本望です。ありがとうございました。うかうかせず余生を送ります。



退職教員より

電気情報工学科 榎本 隆二（えのもと りゅうじ）

明石と云えば屏風ヶ浦粘土層だと思う。林崎から東二見へと続く海食崖の連なりは化石の宝庫。そこで、過日、電鉄中八木駅より徒歩で現地に向かった。瀬戸内の海岸近くに路頭の粘土層があること自体、不思議なことだが、明石沖の海底地形を考えれば砂礫層の広がらない理由にも納得する。一波は磯に砕く。されどわが聴くはかの波の響きにあらず枯草の葉ずゑを過ぐる風の歌にもあらず。— わたくしは、勾配的モースメール制御系とか計算モースホモロジーなどという超マイナーな分野に棲息する学徒ですが、明石象、これはいいですね。最後に、お世話になった先生方に心より御礼申し上げます。

人間の「魅力」

電気情報工学科 出口 幹雄（でぐち みきお）

私の恩師、新居浜高専第5代校長の故・板谷良平先生は、常々「人間には4つの力がある」と言っていた。4つの力とは、体力・気力・知力、魅力、だと言う。この内、前の3つは努力で何とか鍛えることができるが、魅力はどうしたら培えるだろう。魅力には4つの要素があると私は思う。一つは、誠実さ。不誠実な人間は信用できない。そして、熱心さ。指示待ち人間では使い物にならない。3つ目は、謙虚さ。いくら能力の高い人間でも周囲への感謝の心が無ければ浮いてしまう。最後に、敏感さ。相手が何を求めているかをキャッチする思いやりとそれに答える気配り。そんな魅力ある人材を育てる学校こそ……。

熱中できること

電気情報工学科 中井 優一（なかい ゆういち）

1993年4月に着任以来31年の歳月が経ち、その間、たくさんの教職員や学生と出会うことができました。印象深い学生にも多数出会うことができましたが、思い返してみるとそういった人達は何かに熱中していたように思います。ですので、学生の皆さんには是非、在学中に何でもよいので熱中できるものを見つけて思い切り熱中して頂きたいと思います。何もかも忘れて、一つのことに熱中できる期間というのは人生の中でもそれほど長くはありません。何かに熱中する、熱中できたという体験は皆さんの学生生活をより彩り豊かなものにし、将来皆さんにとって貴重な財産になると確信しています。長い間ありがとうございました。

教員表彰報告

所属	氏名	令和5年に受賞した賞（受賞日順）
都市システム工学科	鍋島 康之	地盤工学貢献賞
教養学群	穂本 浩美	令和4年度国立高等専門学校教員顕彰優秀賞
電気情報工学科	梶村 好宏	第27回（2022年度）日本工学教育協会工学教育賞 文部科学大臣賞
建築学科	水島 あかね	
機械工学科	田中 誠一	
建築学科	平石 年弘	

3年生合宿研修報告

合宿研修を終えて

機械工学科 3年 嘉納 優音 (かのう ゆうと)

私たち機械工学科3年は、10月24日(火)・25日(水)にあった合宿研修で日に新た館・トヨタ博物館・ナガシマスパーランドに行ってきました。高専に入ってから初めてのクラスで行く宿泊行事で、朝が少し早かったり、バスでの長時間移動もあったりして少し疲れもしましたが一同楽しい時間を過ごせました。

始めに訪問した日に新た館はダイフクという物流システムを扱う会社の展示場で、館内には物流に使う機械が多種にわたって展示されており、最先端の技術を体感することができました。

次に訪問したトヨタ博物館は自動車の歴史を実物とともに展示していました。技術の進歩や用途に応じて変化していく自動車の仕組みやフォルムを見て、技術の進歩を分かりやすく学びました。

初日の夜は蒲郡にある温泉旅館に泊まりました。クラスで夕食を食べた後は温泉に入ったり、部屋の仲間と遊んだりしてとても楽しい夜を過ごせました。

2日目は多くの人を楽しみにしていたナガシマスパーランドへ行きました。スチールドラゴンや白鯨といった絶叫マシンをはじめとする様々なアトラクションを時間いっぱい楽しみました。

この2日間でクラスメイトとの親睦をより深めることができ、とても充実したものになりました。

このような楽しい旅行を計画してくださった皆様、ありがとうございました。

留学生in合宿研修

電気情報工学科 3年 Krasaetanont Wachirawit (マージン)

この合宿研修の目的は何かはわからないけれど、私の目的は友達と新しい経験をしたり、楽しいことをしたりすることでした。今、この合宿研修の最初の記憶は旅行の前日の夜です。それは出発時間に間に合うように起きることを忘れないことでした。結果は間に合いました。バスに乗って、友達と会って、バスが出発しました。その時は友達と時間を過ごしました。そして舞鶴に到着しました。そこにあったのは戦争時代から残った建物だそうです。その時は留学生と一緒に周りました。それで海軍ゆかりの場所に行って、船に乗りました。その時はたくさんの船の名前や、歴史の話を聞きました。わからないことも多かったです。その次は昼ご飯を舞鶴で食べました。昼ご飯はカレーで、いっぱい副菜があって、すごかったです。次に、高速増殖炉もんじゅに着きました。もんじゅの見学では、このもんじゅの歴史などを学んで、一番面白かったのはVRでした。他のところは日本語があまりわからなくて、VRを見る時だけは日本語が分かりやすかったです。もんじゅの見学が終わると、次はホテルに行きました。ホテルはすごく良かったです。友達と一緒にピリヤードをしたり、お風呂に入ったりしました。翌日朝日を見るために早めに起きました。それはとてもきれいでした。和室のものを使って色々なきれいな写真が撮れました。ホテルを出発した後、鉄砲ミュージアムに行って、次は自由に町を歩いたり、買い物したりしました。この旅行は思い出に残る、楽しい旅でした。

研修旅行を終えて

都市システム工学科 3年 玉木 智啓 (たまき ともしろ)

黄金色の街路樹が美しく彩る10月下旬、3年都市システム工学科では研修旅行で名古屋港ガーデンふ頭とナガシマスパーランドに行きました。

ガーデンふ頭の水族館ではシャチのショーを見たり、真珠取り体験をしたり、皆思い思いに楽しみました。また、南極観測船や博物館の展示物を見て自分の知識を披露したり、展望台から見えるビルや山が何かを真剣に予想している地理マニアの友人を見ることができてとても楽しかったです。

クラスメイトと行く初めての旅行ということもあり、ホテルでの食事中やお風呂などで普段話さないような級友同士で仲良く語り合う光景がよく見られ、やはり研修旅行の醍醐味というのはここにあると感じました。夜は各自部屋でパーティーゲームをしたり旅行ではお決まりの恋バナをしたりなど、とても盛り上がっていました。

次の日のナガシマスパーランドでは乗り物に乗って楽しむだけでなく、ジェットコースターの柱に使われている鉄骨の美しさに感動をしている同級生がおり、流石都市科だと思われました。この日は10月の平日ということもあり、かなり多くのアトラクションに乗ることができ、帰りのバスが出発する頃には皆ぐっすり眠っていました。

高専生活も振り返しを過ぎ、卒業の2文字も近づいてきています。この先段々と忙しく友人と遊ぶ機会も減り、苦しくなる時期があるでしょう。そんな時にこの研修旅行の思い出がみんなの心を癒してくれることを、委員長として願います。

3年生合宿研修報告

一泊二日岐阜旅行うちバス移動14時間

建築学科 3年 長野 晏大 (ながの はると)

朝8時と早い出発。私たちの最初の予定はまず、5時間のバス移動。13時にドライブインで1人あたり豚肉3枚のしゃぶしゃぶを頂きました。昼食後もバスは続き、2時間半で白川郷に到着。合掌造を見て勉強しました。1日目の予定は終わり、2時間の移動でホテルに到着。岐阜と言えば下呂温泉！温泉街を浴衣で出歩く夜を期待していましたが、コンビニにもバスで行くような立地で宿籠りが確定。夕食の食放題にはいろんな種類の肉があって、全種類、顎が疲れるまで食べました。宿の売りの大浴場での超長湯で赤子肌の学生もいました。穏やかな2日目の朝。朝食も食放題で前夜の個々の反省を胸に適量いただきました。朝8時には宿を出発し、郡上八幡の城下町を朝早く散策しました。午前中の食べ歩き後の学生には昼食は少し重い様子でした。そうしていよいよ最後の目的地ぎふ・みんなの森メディアコスモスに到着。素晴らしい建築で、職員の方の案内で2グループに分かれて視察しました。その後3時間半のバスを経て、岐阜最高旅行プランは完遂。ありがとう岐阜。



5年生見学旅行報告

5年間の成長を感じた見学旅行

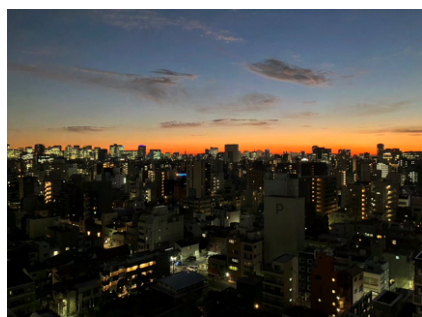
機械工学科 5年 藤田 裕 (ふじた ゆう)

遠い先のことと考えていた卒業が近づくのを実感し始めた昨年の秋、私たち5年機械工学科は関東での見学旅行に向かいました。

JAXAや羽田空港、鉄道博物館など、この5年間学んできたことのさまざまな応用例を肌で感じることができる場所の見学はもちろん、スカイツリーやディナークルーズ、浅草や横浜での自主研修など、心動かされる体験が盛りだくさんのスケジュールでした。

3日目の自由行動では親しい友人とともに鎌倉と江ノ島の観光にも行きました。たくさんの写真を撮る中で、友人たちの顔つきが入学したころと大きく変わっていることに気づき、この学校で過ごした時間と得た学びの大きさを感じました。

乗る新幹線の運転見合わせに始まり、ハプニング続きの旅ではありましたが、一方で、日常から離れた場所で友人たちと長い時間を過ごす貴重な機会となりました。これもひとえに、快く送り出してくれた保護者の方々と引率していただいた先生方のおかげだと感じています。本当にありがとうございました。



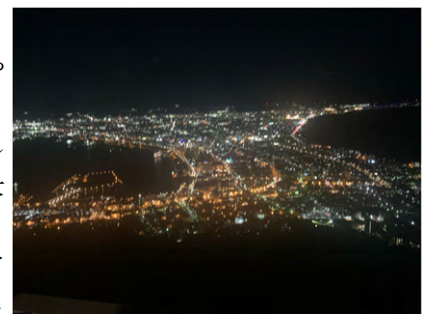
長く短かった北海道周遊

電気情報工学科 5年 宮田 樹 (みやた いつき)

10月下旬、私たち5年電気情報工学科は見学旅行として北海道に行ってきました。4泊5日の行程で、函館、登別、札幌という順に滞在し、食べ物や温泉、そして豊かな自然を満喫しました。

1日目は函館に到着し、五稜郭タワーや赤レンガ倉庫などの見物を通して、函館の地理や歴史に触れました。仲間たちと見た函館山からの夜景は決して忘れません。

2日目は洞爺湖などを經由して登別を訪れ、温泉にて課題や研究の疲れを癒しました。ホテルのバイキングが豪華だったのでみんなハッスルしていました。



3日目からは札幌へ移動し、白い恋人パークにて工場の見学などを行いました。

4日目は終日班ごとの自由行動でした。夏休みに入る前から、教室では自由行動の話題で持ち切りで、牧場に行く班や小樽まで足を運ぶ班など、各班よくリサーチして当日を迎えた様子でした。

5年間同じ教室で過ごしてきた私たちですが、お土産を沢山買う人やお風呂に長く入る人、ひたすらソフトクリームを食べる人など、普段見られない一面が見られて新鮮でした。ずっと続いていくような5日間は、終わってみれば一瞬で、とても密度の高い旅だったと思います。

5年生見学旅行報告

見学旅行を振り返って

都市システム工学科 5年 北 光一（きた こういち）

令和5年10月23日から10月27日にかけて、都市システム工学科5年生は研修旅行を行いました。研修旅行では、北海道新幹線延伸事業や新千歳空港誘導路延長工事などの最先端の土木工事技術を見学するなど、通常の学校の授業では体験できない非常に有意義な研修を行うことができました。特に、北海道新幹線延伸工事の工事現場では、トンネル掘削後の防水処理の様子や高架橋建設工事における大型クレーンを用いた矢板の施工を見学することができ、貴重な経験を得ることができました。また、札幌、小樽、函館に於ける自由行動を通じて、今後多様な進路に進む同級生と親睦を深め、各都市の歴史や文化を知ることができました。特に、函館山から見た函館の夜景や旧函館区公会堂は本当に美しく感動しました。この貴重な経験を将来に活かしたいと考えています。最後になりましたが、ご多忙の中、貴重な工事現場を見せてくださった関係者の皆様、調整を行ってくださった先生方に厚く御礼申し上げます。



北海道の思い出

建築学科 5年 所 奈樹（ところ だいき）

卒業旅行で北海道に行きました。函館空港に降り立ち4泊5日かけて函館、登別、札幌、小樽、北広島を巡り千歳空港から帰りました。1日目は函館で夜景や赤レンガ倉庫の街並みを見ました。2日目は登別で温泉や熊牧場で癒やされました。3、4日目は札幌や小樽を自由行動して楽しみました。5日目はエスコンフィールドへ行き野球場を楽しみました。途中から雪虫の大群に襲われ観光しにくかったです。5日間の旅行で北海道の自然の素晴らしさに圧倒されました。ホテルモントレエーデルホフ札幌の朝食buffetがとてもおすすめです。



各種大会・コンテスト報告

高専ロボコンは最高！

電機情報工学科 3年 大西 舷斗（おおにし げんと）

私は、高専ロボコンに参加するために明石高専に入学しました。今年度はチームリーダーとして、チームをまとめる仕事をさせていただきました。

ロボット完成までは、うまくいかない状況が長く続くこともありましたが、部のみんなで粘り強く協力しあって、ロボットを完成させることができました。残念ながら全国大会出場は叶いませんでしたが、ロボットは全国大会出場ロボットにも全く引けをとらない完成度を誇っていると思います。

私はロボコンを通して、仲間と協力して物事をやり遂げることの楽しさを学びました。また、私自身がリーダーのような役割が好きだということに気づくこともできました。今後ロボコンのように、仲間と協力して物事をやり遂げる楽しさを得ることのできる活動に携わりたいと強く感じました。

私がこれまでロボコンに全力を注いでこられたのは、先生方、OBの方々、部の仲間たち、そして家族の協力と応援があったからです。本当にありがとうございました。



各種大会・コンテスト報告

全国高専デザコン2023in舞鶴 創造デザイン部門優秀賞

建築学科 4年 谷口 碧 (たにぐち あおい)

私たちの出場した創造デザイン部門とは、一般に建築の設計や模型の制作ではなく、与えられたテーマに対してプランを計画し、アイデアで競い合う、クリエイティブで多面的な思考が必要とされる部門です。今年度のテーマは「デジタル技術を用いた well-beingに向けて都市と地方の融合」。PLATEAUと呼ばれる3D都市モデルのオープンデータを駆使し、都市と地方をつなぎ再興させる、というものでした。私たちは「次元を超えたまちづくり マホロバ」と題して、PLATEAUを用いて日本の街を再現したインターネット上の仮想空間『マホロバ』に人々がアバターとして参加し、アバター同士でSNSのように交流を深めながら同時にまちづくりにも触れる、というサービスを提案しました。本選当日はプレゼン前日に実際にUnityで模擬マホロバを作成することになったり、プレゼンはあまり上手くいかなかったりと落ち着きのない2日間でしたが、結果としては優秀賞を頂くことが出来ました。チームのメンバーをはじめ、マホロバを創るにあたって協力してくださったすべての方々には感謝してもしきれません。ありがとうございました。



高専プロコン競技部門への取り組み

電気情報工学科 3年 井上 元葵 (いのうえ げんき)

昨年度に引き続き、高専プロコンの競技部門に参加しました。今大会の内容は、複数のキャラクターを操作し、陣取りゲームを行うという内容でした。今回のお題に対して、私たちは、機械学習を使いキャラクターの操作を任せるという作戦を取りました。大会一日目、ファーストステージでは、前半戦に敗北しましたが後半戦は勝利し、なんとかセカンドステージに進出しました。しかし、その後のセカンドステージで敗北、二日目の敗者復活戦でも敗北し、惜しくも決勝へは進めませんでした。

本大会を振り返って、改めて今回のお題に対する機械学習という手法の難易度の高さを実感しました。昨年度に比べ、良い結果を残すことはできませんでしたが、この悔しさを糧に、今後様々なことに挑戦していきたいと思えます。

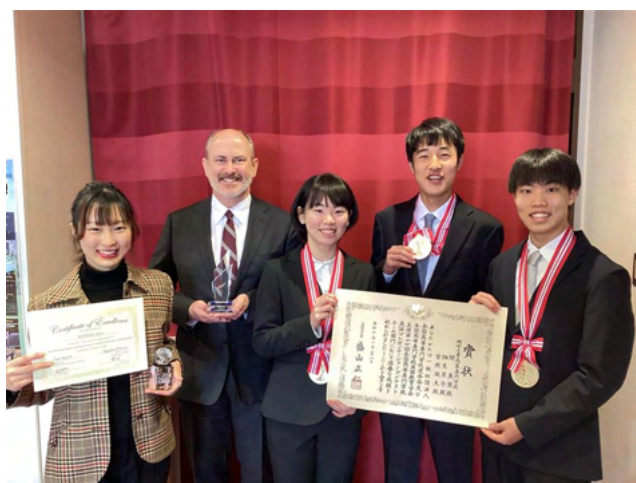


陣取り合戦の試合の様子

英語プレコン全国優勝！

建築学科 3年 曾我 風太 (そが ふうた)

私たちは1月に開催された第17回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加しました。明石高専が近畿地区の優勝校として、シングルとチームの両部門で全国の舞台に立てたことはとても嬉しかったです。チーム部門では、カンボジアでのボランティア活動で得た学びや考えたことを発表しました。私たちのプレゼンテーションが評価され、優勝という結果に終わったことは大きな達成感を感じました。約6ヶ月にわたり多くの人々の支えを受けながら、充実した練習を積むことができました。ハーバート先生、丁寧なご指導ありがとうございました。そして応援してくれたみんな本当にありがとう！素晴らしい経験ができました。



各種大会・コンテスト報告

金のスズシカ

機械工学科 3年 西本 悠暁（にしもと はるあき）

今年度の4月から部長となり、実感が湧かないまま6月のエコラン、7月末のEne-1のレースと月日が経つのはとても早く感じました。そんな中、充電単3乾電池を40本用いて鈴鹿サーキットを3回アタックするEne-1challengeでは大学・高専・専門学校クラスで1位という見事な結果を収めることができました。短い製作期間の中結果を残せるマシンに仕上げることができたのもチームメンバーの努力、顧問の先生方の協力そして出資していただいている方々の支援のおかげで勝ち取ったものです。このような快挙に部長として部に携わることができ私自身、そして高専生活を通して貴重な経験になったと感じています。



パソコン甲子園2023本選を終えて

電気情報工学科 2年 笠井 瑛司（かさい えいじ）

今年、自分が競技プログラミングを始めるきっかけとなったパソコン甲子園に参加しました。全国から500を超えるチームが予選に参加し、予選を勝ち抜いて11月に会津大学での本選に出場しました。大会1日目では、開会式の後にプログラミング部門の競技がメインとなりました。競技は2人1チームで協力して、与えられた13問を制限時間である4時間でできるだけ多く解くという内容です。結果は入賞の8位には届きませんでしたが、初挑戦ながらも全体15位と満足のいく結果になりました。大会2日目では、すべての競技が終了したあと、問題の解説が行われました。問題を製作された方からスライドを用いて解説が行われ、質疑応答の時間もあつたため、貴重な時間になりました。本選に出場できるとは思ってもいなかっただけの出場で、交流もでき、非常に勉強になった2日間となりました。来年には本選で入賞できるように精進したいと思います！応援ありがとうございました。



海外留学報告

海外留学に挑戦してみて

電気情報工学科 2年 大塚 彩織（おおつか さおり）

明石高専に入学してたくさんの留学生と触れ合う中で、中学からの夢だった留学を実現することができました。ドイツに来て4ヶ月が経ちました。ホームステイ先に着いた時は不安ばかりでしたが、ドイツ語が少しずつ聞き取れるようになりました。でも、言いたいことがうまく話せない。英語も充分ではなく、投げ出したくなる時もあります。しかし、ヨーロッパの雄大な風景と友達のグローバルな考え方は、そんな私の気持ちを吹き飛ばしてくれます。私の周りの友達はずいぶんアゼルバイジャンやウクライナなど多国籍です。私の知らない世界を知ることは楽しいです。今は残りの6ヶ月が楽しみで仕方ありません。日本に帰ったら、多国籍なドイツ、そしてヨーロッパの魅力を伝えられたらいいなと思っています。



人生のあり方

建築学科 3年 長谷川 美乃（はせがわ よしの）

ふと見つけた留学のポスター、それは2022年10月。次の秋にはカナダで10ヶ月過ごした。コロナ禍の日常に嫌気がさしていたあの日、ポスターを見つけて僅かな可能性を試したくなった。「募集があるということは、このうざったい環境から抜け出せる可能性が0ではない。」すぐに話は進むが、留学への好奇心は不安に変化し自分の決断にそれは正解だったのかと問い続ける日もあった。しかし、カナダでの生活が価値観を少し変える。感情を良くも悪くもはっきり表現するカナダ人に初めは困惑するも人間は不思議なもので少し経てばそれが日常と化し、その環境に同化する。学校の先生や友達と”Who is your best teacher?”と話していると、最後に答えた先生は「My mistake」と言い、「上手くいけばそれでいい、失敗しても人に助けてもらい、その失敗から学ぶから後に大きな成功となる。」と付け足した。そんな昼休みを過ごしたあの日、これは自分の決断に迷いのあった私に言えることだと感じた。

人生とはまさにそう、失敗はつきもので何が起こるか分からないし、時の流れに身を委ねるだけでは充実した日々は送れないから、挑戦したものをいかに意味あるものにするかが大事になる。多文化社会なカナダの環境下、五感でグローバルを感じ人生のあり方を学んだ意味ある10ヶ月になった。

留學生活を終えた暁には、プライスレスな経験と言語化のできない達成感が待っている。皆さんも挑戦してみては。

国際交流活動報告

興味の一歩は世界を半周する

建築学科 2年 小屋 悠希 (こや ゆうき)

今回のトビタテ！留学JAPANの留学で、私は西洋建築の意匠を学びに英国へと飛び立った。実をいうと当初は不安が大きく、留学が決まった際には呆然としていたのだが。実際に経験してからいうと、勿論幸福ばかりではなかったが、失敗も楽しさも含めてこの留学では本当に良い経験ができたと思う。

私は「現代の公共空間」「英国の宗教空間」「歴史的構造」の三つの観点から様式意匠との関わりについて調査を進め、八つの調査対象の他、数か月の間にできるだけ多くの様式建築へ足を運んだ。その中で気づいた事は多くあるが、高さ凹凸の鮮やかさを示す「縦線」、遠近と安定の視覚化しそれ自体が重要を明示する「石柱」、各所の使い方で建築のイメージを定める「直線と曲線」の三つについて特によく知見を得られたと思う。これらはどれも日本では見られない英国の様式建築から得られた知見であり、これに気付いただけでもかなりの収穫だったと考える。

最後に、この留学を通して今留学を迷っている人に伝えたい。「世界は想像よりも近い場所にある。そこに入るのは興味の一歩で十分だ」という事だ。



タイ高校留学記

電気情報工学科 3年 桐野 優衣 (きりの ゆい)

昨夏、短期留学という形で2週間ほどタイに行きました。滞在先はタイの中高一貫校、プリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール(PCSHS)トラン校です。タイの人とはとにかく友好的で、私も留学生という立場で大変親切にしてくれましたが、出会うすべての人々から今まで経験したことのないくらい大きなウェルカム精神を感じました。ある種の国民性かとも思います。フェアウェルパーティーではクラスメイト全員が歌い踊る、15分以上の大パフォーマンスを披露してくれました。照れながらも楽しんでいた彼らの笑顔は忘れられません。明石高専でも短期長期問わず多くの留学生を受け入れているので、見習っていききたいところです(踊らずとも)。



話は変わりますが、滞在した部屋でよく蟻が行列を作っていました。初めこそなるべく目を逸らして過ごしていましたがあまりにも我々の生活圏に侵入してくるので心を無にして退治するようになりました。長年の虫への恐怖心が少し克服でき大変うれしく思っています。

今回の留学を通して、外国の文化に触れたことでより日本への解像度が上がったように感じました。これからは国内外の様々な所を訪れたいです。最後になりましたが、今回の留学に関わってくださった全ての方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

協定校のデ・ラ・サール大学付属高校を訪問しました

都市システム工学科 3年 倉松 央 (くらまつ ひろ)

2023年9月10日から同月23日までの2週間に渡り、本校と協定校であるフィリピンのデ・ラ・サール大学付属高校を訪問しました。本プログラムは、フィリピン私立大学最高峰であるデ・ラ・サール大学の付属高校にて実際に授業へ参加するほか、スタディツアーや食文化体験など多彩なプログラムで構成されており、今年度は15名の学生が参加しました。両校の交流はフィリピンと日本が国交正常化60周年を迎えた2016年に始まり、以前は毎年交換留学生を派遣していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、今年4年ぶりの対面での実施となりました。滞在中は授業や観光などを通して、フィリピンの文化や歴史を学びました。特に原住民族の村への訪問や滞在した地域の歴史学習など、日本では体験できない様々な経験をすることができました。またプログラムを通して現地の学生とも親交を深めることができ、本校とデ・ラ・サール大学付属高校の関係をより一層深めることができたと感じています。現在新型コロナウイルスも終息に近づき、海外への渡航もコロナ前の水準まで戻りつつあります。そうした中で今後両校の交流がより活発になることを願っておりますと共に、来年度以降本校へ訪れる海外の学生に手厚いサポートができるよう努めていきたいと思っております。最後に本プログラムを実施するにあたりご尽力いただきました全ての皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



学生支援オフィスより

学生支援オフィスより

学生支援オフィス長 濱田 幸弘 (はまだ ゆきひろ)
学生相談室長 松塚 直樹 (まつづか なおき)

昨年に新型コロナが5類感染症に移行したこともあって、コロナ禍前の日常が戻ってきています。多くの制約を余儀なくされていた頃に比べて、勉強、課外活動、趣味等に励み、より充実した日々を送られている方も多いのではないかと思います。一方で、学生生活では勉強、進路、人間関係、心身の健康などの悩みや不安、時には困難と直面するものです。身近な人にもなかなか相談ができずに、一人で抱え込んでしまうことがあるかも知れません。

学生支援オフィスでは、学生生活をより良くするための取り組みや、担任面談およびアンケートの実施、困りごとを抱えた方に対して様々な形で支援等を行っています。学生相談室にはスクールカウンセラー4名、看護師3名がいますので、心や体の専門知識を持った方に相談することもできます。困ったことがあれば、どんなことでも構いませんので、まずは学級担任、学生相談室員、スクールカウンセラー、看護師のどなたかに相談してみてください。人によっては勇気がいることかも知れませんが、それが第一歩となります。学生支援オフィスは困っている方一人ひとりに寄り添いサポートしていけるよう努めていきます。

(春休み中も学生相談室のカウンセリングを受けていただくことができますので、ホームページで開室日を確認して下さい。)

図書館より

情報メディアの歴史

情報メディアセンター長 平石 年弘 (ひらいし としひろ)

太古、情報は口頭で伝えられることが一般的で、物語として世代から世代へと語り継がれました。岩への壁画も伝承を助けたかもしれません。紀元前数千年前に文字が登場し、記録媒体も粘土板、木簡、皮革、紙が使われ移動が可能となりました。伝えることができる情報の量も質も格段に向上しました。15世紀にグーテンベルクが活版印刷機を発明すると本の大量生産が可能になり、一般の人々も書物にアクセスできるようになりました。19世紀に電信や電話が登場し、遠隔地とのコミュニケーションが可能になり、情報伝達がリアルタイムで行えるようになりました。20世紀初頭にはラジオ・テレビが普及し、視聴者に情報やエンターテインメントを提供する新たなメディアが広まりました。そして、20世紀後半～21世紀初頭、コンピュータ技術の進歩とインターネットの普及により、情報のデジタル化が進み、ウェブサイト、電子メール、ソーシャルメディアなどが情報伝達の主要な手段となりました。21世紀となり、スマートフォンの登場により、モバイルインターネットが一般的になり、情報のアクセスがいつでもどこでも可能になりました。今後はAIの発達が情報メディアにも大きな変化をもたらすでしょう。

加速度的に進化する情報メディアに対して、我々の脳を含めた人間は数万年以上ほぼ変化しておらず、どちらかと言うと退化しています。そう言う私も今、ChatGPTと相談しながらこの文章を書いています。便利になれば、なるほど私の脳も退化していくのかもしれません。

ブックハンティング体験記

電気情報工学科 3年 村上 惟 (むらかみ ゆい)

この度、三宮の書店で行われたブックハンティングに参加する機会をいただきました。ブックハンティングは、書店に足を運び、学校から支給された予算内で書籍を選定し購入できるという非常に貴重な制度です。私は昨年度も友人と参加しましたが、今回はメンバーが変わった新しい組み合わせでの参加となりました。

今回は技術書を中心に選書を行いました。技術書は1冊で数千円する書籍で、学生が個人で購入するのはかなりの勇気が必要になります。しかし、このブックハンティングという機会を利用することで、予算内で思う存分技術書を選ぶことができました。限られた予算内での選書は大変ですが、それもまた良い経験となりました。ブックハンティングは学生にとって本に触れる絶好の機会です。普段書店に行く機会が少ない学生も、ブックハンティングを通じて書店の雰囲気を楽しむことができます。また、友人と一緒に参加することで普段とは違った新しい視点から書籍を選ぶこともできます。

実際に書店に出向き、限られた予算内で吟味しながら、また仲間と相談しながら本を選ぶ経験は、学生にとって非常に貴重なものです。ぜひこの制度の存在を多くの学生に知ってもらい、より多くの学生に活用してほしいと思います。

図書館より

学生購入希望図書について

図書館では、学生の図書購入希望を受け付けており、購入の依頼があった場合は、明石高専選書基準に則って情報メディアセンター長と相談した上で希望図書を購入しています。

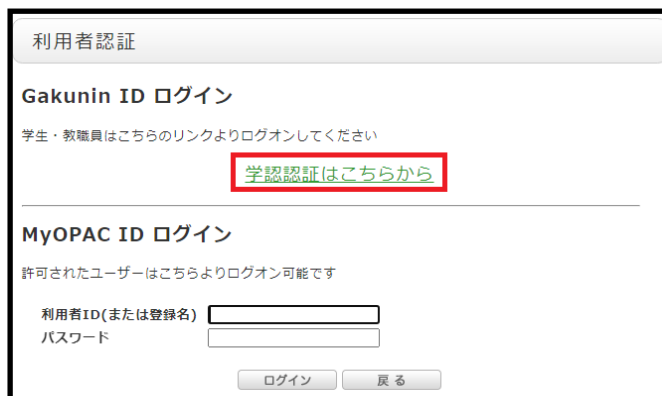
学生の図書購入希望の受付は次のとおりとなります。

明石高専OPACのURL: <https://libopac-c.kosen-k.go.jp/webopac29/cattab.do>

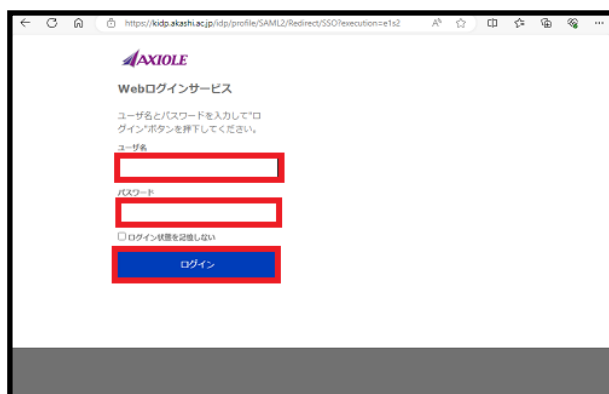
(明石高専Webサイトから、学生生活→図書館→利用案内(学内向け)→学内資料検索(OPAC))



(1) OPAC画面右上の「ログイン」をクリックします



(2) 「学認認証はこちらから」をクリックします



(3) アカウント・パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします



(4) 「利用者サービス」から「新規購入依頼」をクリックして購入希望図書を申請します

新着図書情報

令和5年10月から、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の一環として、図書館開架室にスタートアップ図書コーナーを新設しました。また、3月に完成予定の創造工房(1階)に図書コーナーを配置し、それぞれ同じスタートアップ関連図書を配架しますので、スタートアップに興味のある方もない方も一度スタートアップ関連の本を手にとっていただきたいと思います。

高専図書館というと専門書のイメージがあると思いますが、小説・エッセイ・話題本等一般図書も今年度多く購入しました。新着本コーナーに配架していますので読んでみてください。さらに、TOEICの最新問題集も揃えましたので試験対策にご利用ください。



(学生課情報・図書チーム)

校内短信・行事予定・学生表彰

●校内短信

月/日(曜日)	行事
9月25日(月)	専攻科入学試験(学力選抜)
10月2日(月)	後期授業開始 全校集会
10月8日(日)	近畿地区高専ロボットコンテスト(於:神戸市立中央体育館) 2チーム出場 Aチーム:特別賞(株式会社デンソー) Bチーム:特別賞(東京エレクトロ株式会社)
10月14日(土)~15日(日)	全国高専プログラミングコンテスト(於:サンドーム福井) プログラミング部門2名出場
10月23日(月)~27日(金)	5年見学旅行(機械:東京 電気:都市・建築:北海道)
10月24日(木)	2年バス旅行(機械:海遊館 電気:倉敷 都市:建築:ネスタリゾート神戸)
10月24日(木)~25日(金)	3年合宿研修(機械:滋賀・三重方面 電気:滋賀・舞鶴方面 都市:名古屋・長島方面 建築:岐阜方面)
11月3日(金・祝)~4日(日)	高専祭 高専祭代休:11月6日(月)、2月14日(水)
11月7日(火)	全校清掃日
11月11日(土)~12日(日)	全国高専デザインコンペティション(於:舞鶴市総合文化会館・舞鶴赤れんがパーク) 空間デザイン部門3チーム出場(内1チーム:審査員特別賞、1チーム:企業賞(エーアンドエー賞))、創造デザイン部門4チーム出場(内1チーム:優秀賞、1チーム:審査員特別賞)、構造デザイン部門2チーム出場
11月13日(月)~15日(水)	寮生体育祭
11月18日(土)~19日(日)	近畿地区高専英語プレゼンテーションコンテスト(於:神戸研究学園都市大学利用施設UNITY) シングル部門2名出場:1名1位・1名3位、チーム部門1チーム出場:1位(シングル部門1位1名、チーム部門が全国大会出場)
11月21日(火)~22日(水)	スポーツ大会(11月21日 全校避難訓練)
12月13日(水)	学寮クリスマス会
12月24日(土)~1月7日(日)	冬季休業
1月17日(水)	学寮予餞会
1月20日(土)	入学試験(推薦選抜)
1月27日(土)~28日(日)	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト(於:国立オリンピック記念青少年総合センター)シングル部門1名出場、チーム部門1チーム出場:1位
2月11日(日)	入学試験(学力選抜)
2月15日(木)~22日(木)	後期期末試験
2月26日(月)~28日(木)	学力補充期間

●行事予定

月/日(曜日)	行事
3月12日(火)	入学手続きオリエンテーション
3月20日(水・祝)	第58回卒業式・第27回修了式
3月20日(水・祝)~31日(金)	学年末休業
4月3日(水)	第63回入学式 開寮・入寮式
4月4日(木)	始業式 専攻科生オリエンテーション
4月5日(金)	前期授業開始
4月11日(木)	健康診断
4月17日(水)	学寮防災訓練
4月23日(火)	開校記念日
4月27日(土)	寮生保護者懇談会、後援会役員会・総会
5月15日(水)	寮祭
6月13日(木)	専攻科入学試験(推薦選抜)
6月22日(土)	明葉祭(文化発表会)
6月22日(土)~7月18日(木)	保護者懇談会
6月~7月	近畿地区高専体育大会
7月11日(木)	入学試験(編入学)
7月19日(金)、7月22日(月)~7月25日(木)	学校見学会
7月29日(月)~8月2日(金)	前期試験
8月3日(土)~4日(日)	オープンキャンパス
8月7日(水)	全校集会
8月8日(木)~9月23日(月)	夏季休業
8月11日(日・祝)	閉寮
8月~9月	全国高専体育大会(於:北海道地区)
9月12日(木)~20日(金)	補充履修期間
9月13日(金)、18日(水)、20日(金)	入試懇談会
9月17日(火)	専攻科入学試験(学力選抜)
9月21日(土)	開寮
9月24日(火)	後期授業開始・全校集会

●学生表彰

課外活動優秀賞
2022年度 第12回 ものつくり大学 高校生建設設計競技 1位 建築学科4年 田中 大登 2位 建築学科4年 坂崎 倅平 建築学科4年 増本 唯衣
ランドマークコンペ@福井市間屋町 最優秀賞 建築学科4年 田中 大登 建築学科4年 大西 治季 建築学科4年 杉山 萌 建築学科4年 松田 快翔
第10回E&G学生デザインコンテスト 優秀賞 建築学科4年 栗田 あおい 建築学科4年 川路 優祐 建築学科4年 藤井 遥帆 建築学科4年 坂崎 倅平
中央工学校主催第17回高校生対象コンペティション 奨励賞 建築学科3年 阪田 暁音 建築学科3年 的場 美咲
第20回全国高等専門学校デザインコンペティション 創造デザイン部門 優秀賞 建築学科4年 谷口 碧 建築学科4年 谷塚 朱莉 建築学科4年 合田 快成 建築学科4年 三木 佑介
第2回POLUS木造住宅インターハイ 造形・造作優秀5選 建築学科2年 大西 蒼依 奨励賞 建築学科3年 宇都 椋太 建築学科2年 高慶 莉紅
JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2023 国際協力特別賞 都市システム工学科1年 田村 聡都
2023 Ene-1 Suzuka Challenge・KV-40 Div1b クラス(大学・高専・専門学校クラス) 優勝 エコランプロジェクト
第14回高校生の建築甲子園 まちづくり委員長特別賞 建築学科3年 宇都 椋太 建築学科3年 今田 遼太郎 建築学科3年 横山 澄玲 建築学科3年 吉本 瑚春
第17回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト チーム部門1位(文部科学大臣賞) 電気情報工学科4年 関 真実 都市システム工学科4年 細見 草介 建築学科3年 曾我 風太